

学校名		唐津市立第五中学校	
1 前年度 評価結果の概要	<p>重点取り組み内容の評価項目である「学力の向上」、「心の教育」、「健康・体づくり」、「業務改善・教職員の働き方改革の推進」、「キャリア教育」、「特別活動の充実」について、それぞれ、職員は成果指標を設定し、意識をもって具体的取り組みをすることができた。結果として、多くの個別の取組内容は、職員、生徒、保護者のアンケート等からおおむね良い結果が得られた。しかしながら、数値目標にあと一歩届かなかった項目があったり、さらに高い成果指標を設定できそうな項目があったり、また、取組内容と関係の深いことで本校が十分ではないこともあるなど、今後の取り組みにおいてさらに積み重ねていくことが重要である。</p> <p>「学力の向上」においては、学習状況調査において対県比が低迷しており、今後も個別最適な学びやICTの利活用を含めて、指導方法の研究や改善を進めていく必要がある。</p> <p>「いじめの対応」について、本校では職員の研修や実践を重ねており、解決や早期発見の成果が徐々に表れているが、生徒の学校の取り組みに対する肯定的な回答は昨年度の約65%より上がっているものの約77%にとどまっている。同様に、教育相談の面でも肯定的な回答は昨年度の約62%から約85%に向上しているが、来年度さらに生徒の安心につながるよう研鑽を重ね実践していく必要がある。</p>		
2 学校教育目標	<p>学校教育目標：「未来を創造し、夢と誇りを持つを胸に、進化し続ける生徒の育成」</p> <p>キーワード：「創造」「継続」「挑戦」</p> <p>校訓：みなぎる力、輝く希望、あふるる光</p>		
3 本年度の重点目標	<p>I 知：確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 ⇒①教師の授業力の向上 ②特別支援教育の充実</p> <p>II 徳：豊かな人間性の育成と社会規範の醸成 ⇒①開発的生徒指導の推進 ②キャリア教育の推進 ③生徒会活動の活性化 ④人権・同和教育の充実 ⑤道徳の授業を核とする道徳教育の充実</p> <p>III 体：健康な心と体の育成 ⇒①健康教育・安全教育の充実 ②教育相談等の校内支援体制の確立</p> <p>IV 校務分担と協働による「働き方改革」の推進 ⇒①業務の効率化を図り、生徒と関わる時間の増加促進 ②部活動ガイドラインに沿った部活動指導の推進</p>		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上。	・校内研修でマイプランや学年・教科の取組を共有するとともに、「唐津学びのスタイル」を踏まえた、より具体的な「めあて」の設定と自己評価を含めた「振り返り」の確実な実施など学力向上に向けた取組の推進を図る。
	○基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	○「授業内の小テストや演習問題などを行うことで分かるようになった問題が増えた」、「他者と交流をすることで、より深まった自分の考えを表現することができるようになった」に対して、肯定的な回答をする生徒が、それぞれ75%以上。	・校内研修や学年・教科部会で、指導方法を共有しながら、授業の中で基礎知識を定着させる場面や自分の考えを表現する場面を設定する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○行事や道徳の授業における活動を通して、思いやりや社会性豊かな心を身に付けることができたと感じる生徒の割合が80%以上。	・学校行事(体育大会、文化発表会など)や学年行事(修学旅行、子育てサロン、職場体験学習、松葉かきボランティアなど)において、その取り組みの過程で、支え、承認し、称賞することで、より自発的な活動を促す。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止、対応についての共通理解を図り、覚知時には組織的対応ができていると回答した教師の割合が90%以上。	・いじめの定義、いじめ防止・対応等についての研修及びアンケートを年3回以上行う。 ・覚知時には、対策委員会を立ち上げ、管理職や各学年職員、保護者と連携しながら解決に努める。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒が80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が70%以上。	・生徒に出番と役割を与え、承認する、開発的な生徒指導を実践する。 ・教師自らが、夢を持ち、その実現に向けて努力する姿を見せる教育を実践する。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	②生活習慣に関するアンケートを実施し、それぞれについて心掛けている生徒の割合が、早寝・早起き80%、朝ごはんを食べる80%、適度な運動80%以上。	・全校集会・学活を通して生徒へ呼び掛け、アンケートを実施し、結果を生徒にフィードバックすることで、生徒のタイムマネジメント力を育む環境の充実を図る。 ・各種通信、面談を通して保護者との連携をしながら取組を進める。
	○生徒の心を健康にする教育相談の推進	○教育相談等で「学校は相談しやすい環境を整え対応している」と回答した生徒の割合が70%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行い、支援方法の協議をする。 ・職員が生徒の変化に気づきやすいように、定期的なアンケートを行う。 ・SCやSSWの活用、外部機関などの周知と連絡調整を行う。 ・教育相談に関する研修や資料等の発信を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各職員に、昨年度よりも就業時間を削減することを呼び掛ける。 ・業務効率化の事例紹介などによる定時退勤日の推奨および月に1度、定時退勤の完全実施日を設ける。 ・部活動ガイドラインに則った休業日の設定をする。 ・会議のペーパーレス化を進めることで、資料の印刷配布などの負担を軽減する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○キャリア教育	◎キャリア・パスポートによる自己成長のための見通しと振り返りにより、生徒の志を高める	○自分の将来について肯定的な考えを持つことができた回答した生徒の割合が70%以上。(4段階評価による数値評価)	・キャリアパスポートの記入による、見通し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の個性や長所に気付かせる。
○特別活動の充実	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を生徒を中心に、あいさつの意識づけや、授業遅刻者を0(ゼロ)にする。	・毎月0.4.8のつく日の朝にオハヨー(084)運動として、生徒会が生徒玄関前であいさつ運動を行う。 ・昼休み終了の予鈴の2分前に生徒会から放送で呼び掛けを行う。 ・帰りの会の放送で生徒会から立腰の呼び掛けを行う。 ・学校行事を生徒主体で行うように、生徒会に企画、運営させる。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育			
5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>		